時事新報

明治十八年十二月三十日水曜日
舊乙酉十一月廿五日（巳、未）
日出午前七時十一分　日入午後四時五十五分
月出午前一時十三分　月入午後零時五十一分
滿潮午前　午後零時十二分
（西曆）一千八百八十五年

時事新報定價
一枚金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金三圓四十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇郵便税一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢〇左ニ掲グル各地ニ於テハ郵送料ニテ配達致候
東京　横濱　横須賀　從神奈川至小田原驛　函根七湯　大阪
京都　大津　神戶　尾ノ道　福山　笠岡　岡山　廣島
和歌山　德島　高知　下ノ關　名古屋　岐阜　岡崎　豐橋
四日市　津　松坂　山田　仙臺　福島　二本松　石ノ卷
函館　青森　弘前　宇都宮　高崎　八王子　千住　草加
越ヶ谷　粕壁　杉戶　幸手　久喜　關宿　千葉　登戶
寒川
其他同地近傍配達便宜ノ個所ハ同シク郵送料不申受候

時事新報廣告料（前金）一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上卅日迄	卅一日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘	六錢四厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五	五錢六厘
自卅一行至五十行	八錢	六錢五厘	五錢八厘五	五錢五厘	五錢二厘
五十一行以上	七錢	六錢	五錢四厘	五錢一厘	四錢八厘

廣告

近來東京府下并各地方ニ於テ自ラ時事新報賣捌所ト唱ヘ時事新報ヲ販賣シ剩ヘ其定價ヲ引下ゲ賣捌ク抔申觸レ候者有之趣右ハ本社ノ規約ニ戻ルノミナラズ一般看客ニ對シ不相濟事ニ付本社ニテモ精々取締可致候得共自然右等一時ノ申出ヅニ由リ御注文相成前金受取ノ後新聞紙ヲ配達セザルカ又ハ配達方延引シ看客ノ御迷惑ト相成候哉モ難測候ニ付乾度御注意被成下候樣奉希候尤本社ノ賣捌所ハ兼テ約束取結ビ其住所姓名ハ時々新報紙上ニ廣告仕候也
附本社ト約束アル賣捌所ト雖ド約束ノ通リ新報代前金ヲ本社ニ差入レザル者ハ新報不相渡ニ付往々配達延引致シ又ハ欠號ヲ生シ候樣ノ次第有之看客ヨリ右等ノ不都合ヲ本社ニ御掛合相成候事有之候得共元來賣捌所配達先ハ本社ニ於テ其責ニ任セザル儀ニ候間右等御不都合モ候ハヽ直ニ本社ニ御注文被下候樣仕度候　東京日本橋區通三丁目十一番地
十八年十二月
時事新報社

時事新報

二千萬圓を使用するゝ道あり

國の兵備も鐵道を得て其用を全うそる事を得べく商工農業も鐵道を得て其隆盛を期する事を得べく社會の文明開化も鐵道を得て其進步普及を期する事を得べく鐵道の功れ大なる日月と光を爭ふといふも不可あきなり左ればゐや國を今の世界に建てゝ苟くも文明國の名を冒かす者并に文明を希圖して其進步を急がんとする者にまて實力の及ぶ限り鐵道の布設を勉めざるはあし然るゝ今日日本の國勢を顧みるに鐵道は唯文明れ必要具あるがゆゑゐ世界各國の先例ゝ鑑みて其布設を急かざるべからずといふべきのみあらず他に又一個の鐵道布設を急ぐべき新事情あり夫と世人の熟知する如く彼の中仙道鐵道公債の賣上げ金二千萬圓を殆んど其全額れまゝゝ國庫に儲りまある事是あり日本は兩三年來商工農業皆甚ゞ不景氣にしく金融滑かならず此際恰かも政府れ鐵道資本を引揚げて民間の流通高を減まゝ全國金融れ逼塞を甚ふて益〻甚だま然るゐ又折も折とて政府は中仙道鐵道の資本を求むるが爲先に二千萬圓の公債を發行し既に其流通高を減まさる民間の通貨として更に又一層の少額に陷らまえたり此時我輩れ政府の意の在る所を察し鐵道資本を外國ゝ募らずまて內國ゝ求めたる其理由は目下諸業振はざ信用地ゝ墜ち資金ある者は其使用法に窮し資金なき者はこれを借用するの道塞がりたる折柄政府の信用を以て此資金を借入れ直ちにこれを鐵道布設費ゐ拂出さとれは政府資本家共に損毛を蒙ぶずして寧ろ大ゐ利する所あるのみならず此必要の工事を此逼迫の時節に起して多數の人ゝ職業を與へ夫れより次第に融通の道を開いて不景氣退治の實效を期するものならんと思ひ定めたり然るに其實際に就てこゝを見れば大に我輩の所期と相違まて其公債募集法は極めて迅速ゝして大に我輩を感服せしめられども其鐵道布設法れ極めて遲緩ゝまて大ゝ我輩を煩悶せまめたり二千萬圓と國庫ゝ埋藏そるの不利は無益に年々百四十萬圓れ利足を拂ひ捨つるのみならず此二千萬圓にまて依然民間ゝ在らせ立派に世上の融通を助け幾分ゝ不景氣の苦痛を減ずべき者を徒らに庫中ゐ蟄伏せし先て寧ろ不景氣の上塗と手傳はしむるの實跡あるものあるがゆゑに若し政府にして最初より鐵道工事を急ぐれ意あく二年以來我々の質見そるが如き速力にて徐々ゐ工事を進むるの凹もりあらしめたらんには我輩は何故に政府が公債募集の一事と斯くまでに急ぎまかを疑いざるを得ず年々百萬圓ゝ二百萬圓ばかりの費用ゐ應ずる爲めゝ一時に二千萬圓の金と用意し一方ゐは利足を拂ふの損と招き一方にれ金融と澁らそるの害を起してゝれと顧みざるの理由なければあり試ゐ日く鐵道工事の遲々たるは政府が最初より豫期したる所にはあらず唯政府は金さへ有れば何程にも工事を急ぐ事を得べく金の供給にゐろ困まれ金の使用ゝ困まる事はあるべからまずとて扨は資金募集に力と盡したれども今にして鐵道工事の實際と見ときば東に山あり西に川あり山ゐれ隧道と穿たざるべらず川には橋と架せざるべうらず仮令へ金と積むゐと山の如くこれを使ふゐと水に等しとするも山河天然の險は容易ゐ人力と以て打勝つべからず是即ち今日の如く國庫に金あれども中仙道に鐵道出來ず二千萬圓と使用し盡して全線路の落成を見るも今ゝり倚ゐ幾多の年月を要すべき景狀ある所以なりと我輩はこれに答へて然らを何故に中仙道鐵道資金を他に流用し東海道鐵道なり山陽道鐵道なり九州鐵道なり故障の少なき線路と擇んで其資金の使用と急がざるや此諸線路の中にて山陽道線路れ如きれ兩極の間ゝ大山もなく大川もなく工事の甚だ容易なるのゝならず線路ゐ沿ふ內海の北岸には到る處に港灣ありて荷物の揚卸し自在なるがゆゑに鐵道の材料器械と一時ゝ各地方ゝ陸揚なし五箇所より十箇所より一時ゐ工事を始めて前後に進ゝ急ちゝして全線路を落成せしむる事も容易あるのみと論ずきば或人又曰く中仙道鐵道資金と他線に流用そるれ說甚ざ善けれども爰ゝ一の故障は鐵道技術師の不足なり日本鐵道事業の遲緩ある明治五年新に東京橫濱間れ鐵道成りし以來年々僅かゝ十里內外の線路を增築したるに過ぎずして社會に鐵道技術師の用なかりしがために從てこれが養成に力を用ひたる事もなく少數ある在來の技術師が在來れ技藝を今日に傳へ來りたるに過ぎず故ゝ今ゐ至り急ゐ鐵道事業を擴張せんとて急ゝ工事れ遲緩ゝ實る技術師に三百六臂あるにあらず一體分身の妖術あるにあらず爭で時事新報記者の希望する如く中仙道工事の傍らに東海道にも山陽道にも九州にも一時一齊ゝ鐵道と起その餘裕あらんやと我輩又これに答へて曰く日本の鐵道れ必ずしも日本人の手のみと以て作ると要せず他人を雇ひ來りて補助せしめて可なり英國あり米國なり鐵道技術師は山の如く有る今の世の中に何故錢を出して其働きと買ふ事と工風せざるにや或は云はん日本人の賃錢は廉なり西洋人れ賃錢は不廉あり性急に工事を起して賃錢不廉の西洋人を使用そるは國の大損なりと然きども我輩決して此論に服せまと申す其譯ゝ第一に日本の鐵道組織は今より五十年の後ゝ成るも百年の後に成るも一向に差支あしといふやうの事なきば兎も角も是非數年と期して一と通り全國の交通を便にせざるべからずといふ以上は少許の入費の爲めに辟易すべき場合にあらず第二に二千萬圓れ資金と國庫に積まざる前なれば兎も角も既に每年百四十萬圓の利足と拂ひ資金甚だ多きゝ過ぎて空まく其使用法ゝ困しむ折柄百四十萬圓の大損と忘れて二三十萬の得失と爭ゐが如きは錙銖勘定と知る者の議論ゝあらず況んや日本れ鐵道組織は二千萬圓にしく足るゝあらず追々は二億圓をも要すべき其大工事に西洋人と使用すれど其使用期限中年々二萬圓の臨時出費を要そとて幾年の後日本人にして技術熟練の人輩出そるの日までゐれを延ばさんなど云ふが如きは最も狹小ある量見にして共ゝ天下れ事務を談ずる足らざる者と云ふべし我輩ハ鐵道漸進論者が何樣の口實を設くるも與に鐵道の進步を遮ぎる程れ故障とてれ地理ゝ人事に全國を擧少て絶無なりと信ずるなり

雜報

○生糸貿易沿革れ大要　日本の生糸は此三四年來漸次低價に傾き本年の如きは殆んど其極度にも達し初相場は實に開港以來始めて見る所の安直なりし依て今左に開港の際始めて外國人と取引まさるの時相場より今年今日に至るまで相場歷史の概略を記まて看官の參考に供す

安政六年八月廿日內商永喜屋富之助ある者英國商ケンブナール商會の支那人アリンと取引せり之を日本人が外國人に生糸を賣込みされ第一着步と爲す其時に賣込そたる相場と地方の相場とを比較すれば

○內地相場
○前橋提糸金一兩ゐ付　二百廿二匁換
○大間々提　一名は重箱　又は平造り　金一兩ゐ付　二百十五匁
○上州境提糸金一兩ゝ付　二百四十五匁
○信州上田提飯田造り　二百匁より二百十匁

○商館賣込相場
○和一斤ゝ付　一分銀十一個七分五厘　此金二兩三分三朱
○和一斤ゝ付　一分銀十二個　此金三兩
○和一斤に付　銀十一個　此金二兩三分
○和一斤　一分銀十二個半　此金三兩三朱

右の相場にて三駄即ち十二個と賣込みたるが其相場は當時に取りては少しく安き樣なれ共一分銀を洋銀に直し和百斤の相場に見れば前橋糸和一斤一分銀十一個七分五厘のもの和百斤れ金銀は二百九十三兩三分となり此金と其時れ洋銀相場ゐ切替れば（洋銀一枚の市中相

塲れ三十　十六匁六　となる事　も漸次騰　目より九　相場六十　段は七百　弗まで騰　別の變動　れ三十五　十八匁よ　なく打過　人を殺害　賣買取引　釜々景氣　り然る　洋人と取　ありしか　復ゐ絶ち　八十歳の　事し數十　一兩に付　に付六百　四五匁に　より諸所　で輸出を　く日本商　賣込を爲　げ隨て

○銀行通　月廿五日　年中には　今已に印　○高島石　中の採掘　採掘

代　○日本橋　くゝ（廿日　八十錢　二圓五十　は前日よ　かさきれ　類は一割　飯同行三　三圓位ゝ　銅一尺位　十錢位　動無之（北　し雜銀は　口も顧る　圓に下落　に入津し　○名古屋　○縣會　既に電報